

矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略

2015 ~ 2019
YAITA CITY TOCHIGI

目次

はじめに.....	1
第1章 総合戦略の目的と位置づけ	
1 総合戦略の目的と位置づけ	
(1)総合戦略の目的.....	2
(2)計画期間.....	2
2 総合戦略の基本目標	
(1)総合戦略の基本的考え方.....	3
(2)総合戦略の基本目標.....	4
第2章 総合戦略の方向	
1 施策の体系.....	7
2 基本目標別の具体的施策	
(1)基本目標1(安定した雇用を創出する).....	8
(2)基本目標2(来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる).....	12
(3)基本目標3(各世代を支援する).....	16
(4)基本目標4(活力と魅力あるまちをつくる).....	20
第3章 効果検証の仕組みづくり.....	24



はじめに

国は、平成26年12月に、日本の人口の現状と将来の姿を示し、今後目指すべき将来の方向を提示する「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン(長期ビジョン)」及びこれを実現するため、今後5か年の目標や施策の基本的な方向、具体的な施策を提示する「まち・ひと・しごと創生総合戦略(総合戦略)」をとりまとめ、閣議決定しました。

こうした中、矢板市でも、人口減少の傾向が鮮明となっているなど、人口をめぐる課題への対応が急務であることを踏まえて、独自の「矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略(矢板市総合戦略)」を策定しました。合わせて策定する「矢板市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン(矢板市人口ビジョン)」とともに、矢板市の行政運営を図るうえでの基本指針としていくものです。



第1章 総合戦略の目的と位置づけ

1 総合戦略の目的と位置づけ

(1) 総合戦略の目的

「矢板市人口ビジョン」は、矢板市における人口の現状分析から、矢板市が抱える問題・解決すべき課題を明確にすることにより、それらの問題課題について市民の認識の共有を図るとともに、人口の将来展望と目指すべき将来の方向性を示すことを目的としています。

「矢板市総合戦略」は、矢板市人口ビジョンに示された将来展望への対応を踏まえつつ、住みよい環境を確保しながら、将来にわたって活力ある社会を維持していくために、まち・ひと・しごと創生に関する将来の目標や基本的方向、具体的施策を示すことを目的として策定します。

(2) 計画期間

基本目標や基本的方向、具体的施策を定めた、矢板市総合戦略の計画期間は、平成 27 年度から平成 31 年度までの5年間とします。

具体的施策に基づく個別の具体的事業については、効果検証を踏まえて、年度ごとの実施計画に基づき基本目標の実現を目指します。

【総合戦略】

平成 27 年度～平成 31 年度

【実施計画】

平成 27 年度

平成 28 年度

平成 29 年度

平成 30 年度

平成 31 年度

2 総合戦略の基本目標

(1) 総合戦略の基本的考え方

① 栃木県版総合戦略

栃木県では、国の「総合戦略」に示された人口減少と地域経済縮小の克服、及びまち・ひと・しごとの創生と好循環の確立という考え方を踏まえ、「栃木県版総合戦略」を策定しています。

当該総合戦略では、合計特殊出生率(出生数)を向上、及び東京圏への人口移動を収束等させ、人口減少に歯止めをかける「攻」の『人口減少の克服戦略』と、今後の人口減少、及び人口構造の変化に対応した社会システムへの転換を進める「守」の『人口減少社会への適応戦略』を同時並行的に展開することとしています。

また、人口減少の克服、及び人口減少社会への適応に向けた4つの基本目標として「とちぎに安定したしごとをつくる」「とちぎへの新しいひとの流れをつくる」「とちぎで結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる」「時代にあった地域をつくり、とちぎの安心な暮らしを守る」を設定しています。

② 総合戦略に係る基本的考え方

矢板市における将来人口として、矢板市人口ビジョンでは、国立社会保障・人口問題研究所の2060年の推計値(21,079人)より、約4千人多い25,057人という目標を立てました。

この人口目標を達成するためには、中長期的な人口減少の克服に向けた取り組みと合わせて、人口の増減に自治体経営が柔軟に対応できるようにすることや、市内人口の減少に左右されない地域活力の維持に向けた、市外需要の取込みによる「地域の稼ぐ力をつける」ことといった、人口変動に適応可能な取り組みが、実現性や持続可能性の観点から重要と考えられます。

このため、矢板市人口ビジョンでは、人口減少に対する取り組みの方向性として、人口流出の抑制



や交流人口の増加とともに、定住人口の維持・増加、流入人口の増加などの人口減少に歯止めをかけるための取り組みを推進することとしています。

矢板市総合戦略においては、国及び栃木県版総合戦略の方針との整合を図るとともに、矢板市人口ビジョンでの人口減少に対する取り組みの方向性を踏まえながら、総合戦略の基本目標を設定します。



(2) 総合戦略の基本目標

① 矢板市まち・ひと・しごと創生人口ビジョンからの課題認識

矢板市人口ビジョンによると、矢板市は全国平均を上回る割合での人口減少や、それに伴う地域の活力低下、住民負担の増加などが懸念されており、人口減少の克服とともに、今ある地域産業の競争力強化や、人口減少に適應したコンパクトシティを基軸とする持続可能で満足度の高いまちづくりが必要と考えられます。

特に、進学や就職などを機とした若い世代の市外への転出超過が顕著であり、市内の若者の流出抑制や UJ ターンなどの流入促進のためには、安定した雇用の創出とともに、地域への愛着を育む教育や、市の魅力を活かして交流人口を定住につなげることが必要と考えられます。

加えて、価値観の多様化などによる全国的な未婚化・晩婚化に加え、矢板市では国・県より出生率がやや低く、市民意識調査では、結婚していない理由や希望人数の子どもを持たない理由として経済的理由が挙げられています。よって、結婚・出産・子育て・教育などの希望をかなえる経済的安定や切れ目のない支援により、出生率の回復や地域への定住につなげていくことが必要と考えられます。

② 2つの戦略と4つの基本目標

矢板市総合戦略では、以上のような課題認識とともに、国及び栃木県版総合戦略の考え方を踏まえて、「人口減少の克服戦略」と「人口減少社会への適應戦略」の2つの戦略を合わせて実施するとともに、4つの基本目標を設定します。

「人口減少の克服戦略」としての基本目標は、人口流出の抑制を図るための安定した雇用の創出や、交流から定住人口の増加に向けて来てもらう・住んでもらうための魅力づくりとともに、流入人口の増加や市民の満足度向上に向けた各世代の支援による多様なライフコースの実現を目指します。

また、「人口減少社会への適應戦略」としての基本目標は、人口変動に左右されない地域産業の競争力強化や地域産業を担う人材育成といった雇用の安定化とともに、人口減少下でも利便性の高い住民サービスを確保するため、安全・安心な生活環境の確保や住民参加、コンパクトシティの形成などによる活力と魅力あるまちづくりを目指します。





《矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略における2つの戦略と4つの基本目標》

【栃木県版総合戦略：2つの戦略と4つの基本目標】

- 【人口減少克服／適応戦略】 ①とちぎに安定したしごとをつくる
- 【人口減少克服戦略】 ②とちぎへの新しいひとの流れをつくる
- 【人口減少克服戦略】 ③とちぎで結婚・妊娠・出産・子育ての希望をかなえる
- 【人口減少適応戦略】 ④時代にあった地域をつくり、とちぎの安心な暮らしを守る



【矢板市まち・ひと・しごと創生人口ビジョン：人口減少に対する取り組みの方向性】

人口変動に適応した産業の競争力強化や行政サービス提供等により住民満足度の向上を図り、定住人口の維持・増加につなげていくとともに、人口減少に歯止めをかけるための取り組みを推進する。

- 就労等を契機とした人口の流出を抑制する
- 市の魅力を発見・共感してもらい、定住につながる交流人口の増加を目指す
- 持続可能なまちづくりと合わせて、安心して子どもを産み・育てる生活を実現し、定住人口の維持・増加を目指す
- U/Iターンの流入を促進し、人口増加を図る

〈2つの戦略〉
「人口減少の克服戦略」「人口減少社会への適応戦略」



【矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略の基本目標】

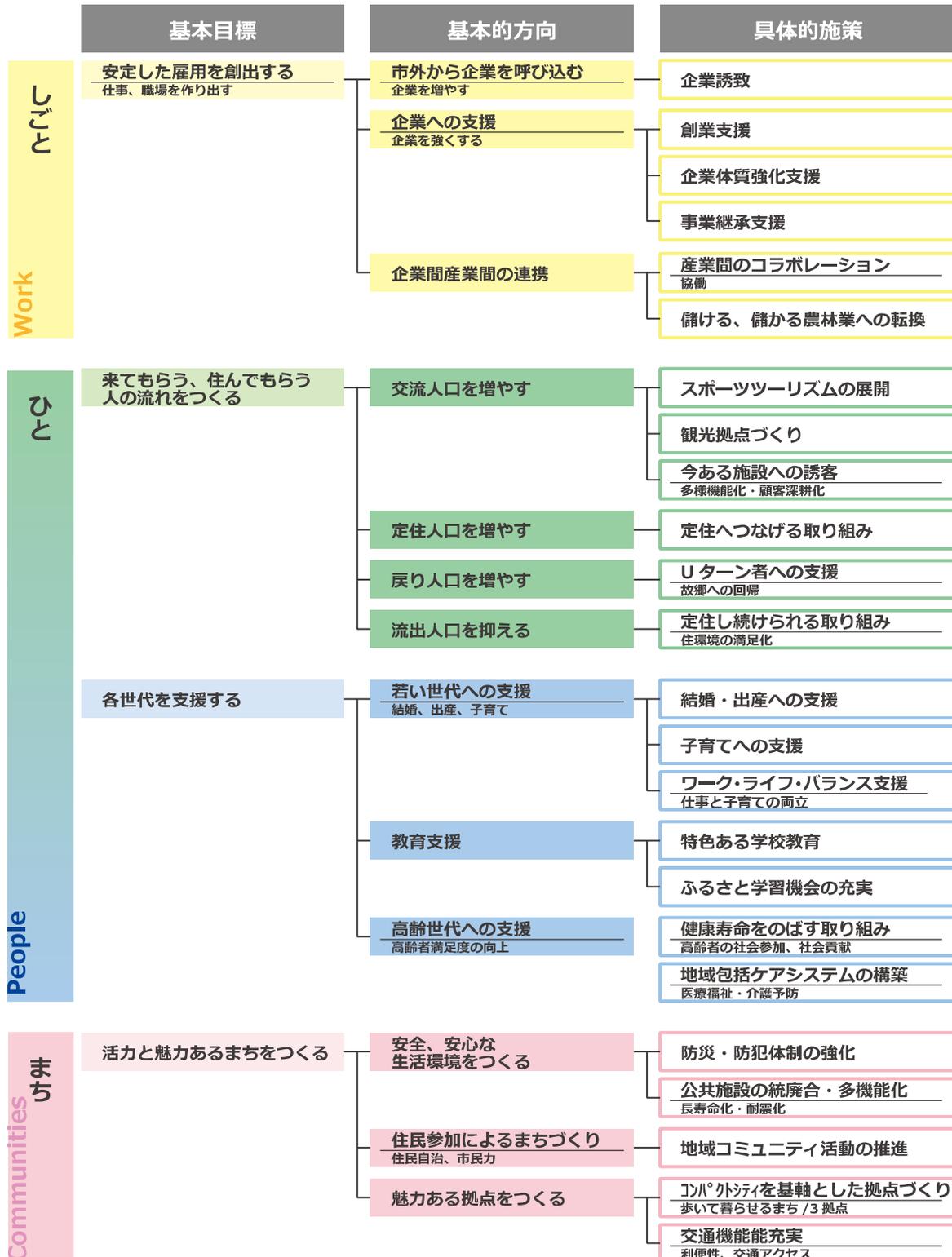
しごと	克服/適応	①安定した雇用を創出する(仕事、職場をつくり出す)
ひと	克服	②来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる
ひと	克服	③各世代を支援する
まち	適応	④活力と魅力あるまちをつくる



第2章 総合戦略の方向

1 施策の体系

矢板市総合戦略では、施策の体系として、4つの基本目標に基づき、以下の基本的方向と具体的施策の展開を図ります。



安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでもらう
人の流れをつくる

各世代を支援する

活力と魅力あるまちを
つくる



2 基本目標別の具体的施策

(1) 基本目標1

① 基本目標

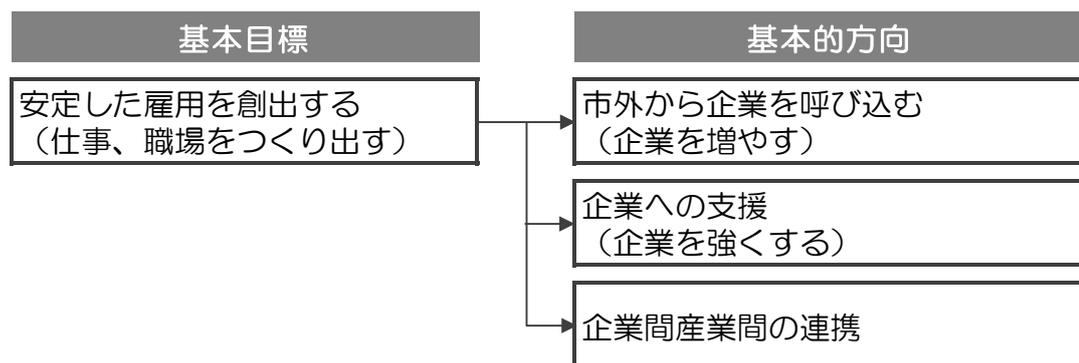
『安定した雇用を創出する(仕事、職場をつくり出す)』

・矢板市での人口の流出を抑制するためには、市民が将来に不安なく働くことのできる環境として、市内での安定した雇用を創出することが重要となります。そのため、市外からの企業の呼び込みにより、市内の企業を増やすとともに、既存の中小企業や農林業などへの支援により、地域産業の強化を図ります。また、企業間産業間の連携等によって新たな価値を生み出して、人口変動に左右されない企業の体質強化を支援するとともに、地域内外の需要を活力として取り込み、矢板市産業全体の発展を図ります。

■数値目標(平成31年度)

指 標	現状値(H26)	数値目標(H31)
市内民間従業者数(人)	12,168(H24)	12,168
市内民間事業所数(事業所)	1,235(H24)	1,235

■基本的方向の体系



② 基本的方向

(ア) 市外から企業を呼び込む(企業を増やす)

- ・市外から企業を呼び込むため、交通アクセスの良さ、災害の少なさなど地理的優位性、優遇策を積極的に情報発信し、矢板南産業団地などへ各種成長産業の企業誘致などを進めます。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
誘致企業数(累計)(社)	38	43

(イ) 企業への支援(産業を強くする)

- ・中小企業や創業者の支援による新たな時代に対応した企業の育成を図るとともに、担い手がいない高齢化の進んだ産業・企業の後継者の確保への支援などにより、市内産業の体質強化を図ります。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
創業塾受講者の創業数(累計)(件)	9	45
後継者育成研修受講者数(累計)(人)	7	12

(ウ) 企業間産業間の連携

- ・産学官による技術開発や異業種との連携による商品・サービスの開発など、企業間産業間の連携を推進して新たな価値の創造につなげるとともに、連携により生み出された新たな技術や販路などを活かして、稼げる農林業への転換を図ります。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
やいたブランド件数(累計)(件)	47	100
やいたブランド開発補助件数(件)	3	8
集落営農組織の法人化数件数(累計)(件)	2	4
農地利用集積率(%)	53	75

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでもらう
人の流れをつくる

各世代を支援する

活力と魅力あるまちを
つくる



③ 具体的な施策と取り組み例

(ア) 市外から企業を呼び込む(企業を増やす)



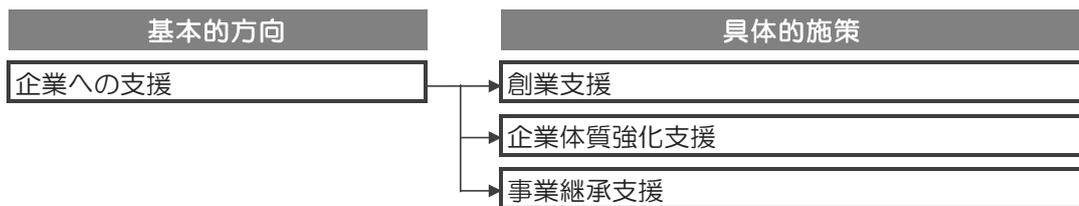
具体的施策と取り組み例

企業誘致

- ・企業の立地促進を図るため、企業誘致推進員からの情報収集、企業訪問、企業を対象とした各種イベントにおける PR 活動や企業に対する各種奨励金の交付などを行います。

取り組み例 ●企業誘致推進事業 など

(イ) 企業への支援(企業を強くする)



具体的施策と取り組み例

創業支援

- ・創業支援事業者である商工会や金融機関等と連携し、創業のための相談窓口の設置、空店舗の改修費補助など創業支援を実施します。

取り組み例 ●創業支援事業 など

企業体質強化支援

- ・中小企業の育成振興を図るため、運転資金や設備資金などの事業資金を有利な条件で利用できる制度融資を金融機関との連携を図りながら実施します。

取り組み例 ●中小企業振興資金貸付事業 など

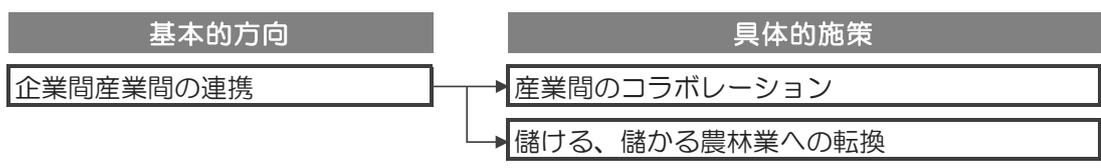
事業継承支援

- ・矢板市内中小企業者が事業を継承していくことができるように、経営者・後継者を対象として開催する講習会への参加支援など後継者の育成を行います。

取り組み例 ●家業継承サポート事業 など



(ウ) 企業間産業間の連携



具体的施策と取り組み例

産業間のコラボレーション
 ・企業間産業間の連携による、高付加価値の製品開発などを支援します。

取り組み例 ● 矢板市企業誘致戦略会議の活用による異業種間連携の強化 など

儲ける、儲かる農林業への転換
 ・優れた農林産物や商品の開発支援や6次産業化への取り組みなどに関する支援を行うとともに、新規就農支援など、各産業の担い手育成や後継者の確保を図ります。

取り組み例 ● 新たなブランドの開発支援(6次産業化)
 ● 新規就農者への支援
 ● 観光農園ゾーンの検討 など

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでももらう
人の流れをつくる

各世代を支援する

活力と魅力あるまちをつくる



(2) 基本目標2

① 基本目標

『来てもらう、住んでももらう人の流れをつくる』

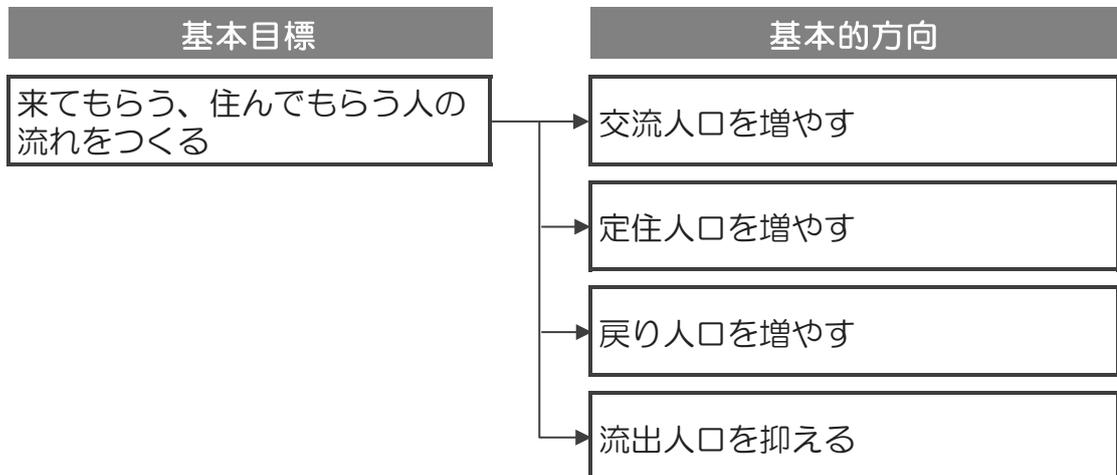
・矢板市の人口減少に歯止めをかけるには、交流人口、定住人口、戻り人口を増やす一方、流出人口を抑えることが重要となります。そのため、市へ訪れる観光客などの交流人口を増やすとともに、市の魅力を発見・共感してもらい、交流から定住へつなげる取り組みを推進します。また、都市部等へ転出した矢板市出身者がUターン者として地域に戻る際の支援や、現在市内に住んでいる人が定住し続けられる満足度の高い環境づくりを推進します。

■数値目標(平成31年度)

指 標	現状値(H26)	数値目標(H31)
交流人口数(人)	1,458,772	2,000,000
純移動数(人)	-309(H25)	±0

※純移動数＝転入者数－転出者数

■基本的方向の体系



② 基本的方向

(ア) 交流人口を増やす

- ・人々の健康志向の高まり等に対して、たかはらマラソンを始めとした、市の豊かな自然の中でのスポーツを通じた交流の促進を図ります。また、交流人口の増加に向けた観光拠点づくりとともに、既存の観光施設や各種交流イベント等への誘客を推進します。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
道の駅やいた関連施設利用者数(人)	974,000	1,200,000
観光ホームページアクセス回数(回)	—	240,000
スポーツ交流人口(人)	—	200,000

(イ) 定住人口を増やす

- ・交流機会を定住に結び付けるための工夫の検討や、矢板市に新たに居住を求める人への支援を行います。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
定住補助金申請件数(累計)(件)	279(H23~)	730

(ウ) 戻り人口を増やす

- ・市内の高校生や専門学校生が市内就職を考える機会づくりや、市から一度転出した矢板市出身者が将来的にUターン者として定住する際の支援を行います。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
新卒者就職支援による市内企業就職者数(人)	—	40
(再掲)誘致企業数(累計)(社)	38	43

(エ) 流出人口を抑える

- ・市内の若者層が市内で就職できるような取り組みや、市民が将来にわたり満足度の高い生活ができるように支援を行います。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
転出者数(人)	1,295(過去10年平均)	1,200

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでももらう
人の流れをつくる

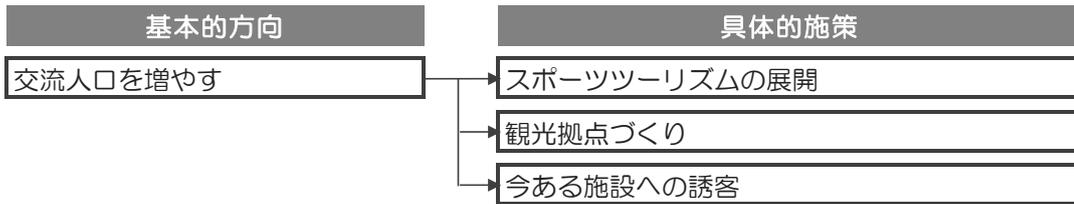
各世代を支援する

活力と魅力あるまちを
つくる



③ 具体的な施策と取り組み例

(ア) 交流人口を増やす



具体的施策と取り組み例

スポーツツーリズムの展開

・高原山トライアスロンや八方ヶ原ヒルクライムレースなど、市の豊かな自然の中でのスポーツを通じた交流を推進します。

- 取り組み例
- 自転車を活用したまちづくり
 - フットボールセンターの誘致などによる、スポーツを活用したまちづくりなど

観光拠点づくり

・農林業を生かした体験型観光ゾーンの形成など、地域産業と一体となった新たな観光拠点をつくり、磨き上げます。

- 取り組み例
- 泉地区交流促進事業
 - (再掲)観光農園ゾーンの検討 など

今ある施設への誘客(多機能化・顧客深耕化)

・既存の観光施設や文化施設等の多機能化や、シティプロモーションを通じた新たな需要の掘り起こしにより、誘客を推進します。

- 取り組み例
- 道の駅・山の駅・城の湯温泉の連携 など

(イ) 定住人口を増やす



具体的施策と取り組み例

定住へつなげる取り組み

・移住希望者や二地域居住希望者が矢板市へ移住・定住するきっかけとするためのお試し居住等を推進します。

- 取り組み例
- 矢板市就農・定住者促進事業
 - 地域おこし協力隊の受け入れ検討 など



(ウ) 戻り人口を増やす



具体的施策と取り組み例

Uターン者への支援(故郷への回帰)

- 市内の高校生・専門学校生が市内就職を考える機会づくりや、職場体験から就職までの支援とともに、Uターン者など、矢板市内に新たに住居を求める人に対する支援や、移住者向けの創業・就労支援、各種関係機関と連携した情報発信等を推進します。

取り組み例 ●Uターン者雇用助成制度の検討 など

(エ) 流出人口を抑える



具体的施策と取り組み例

定住し続けられる取り組み(住環境の満足化)

- 市内の若者層が市内で就職できるような取り組みや、住民の満足度が高い暮らしやすい環境づくりを進めます。

取り組み例 ●「暮らし」のびのび定住促進補助事業
●若者向けコミュニティスペースづくりの検討 など

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでもらう人の流れをつくる

各世代を支援する

活力と魅力あるまちをつくる



(3) 基本目標3

① 基本目標

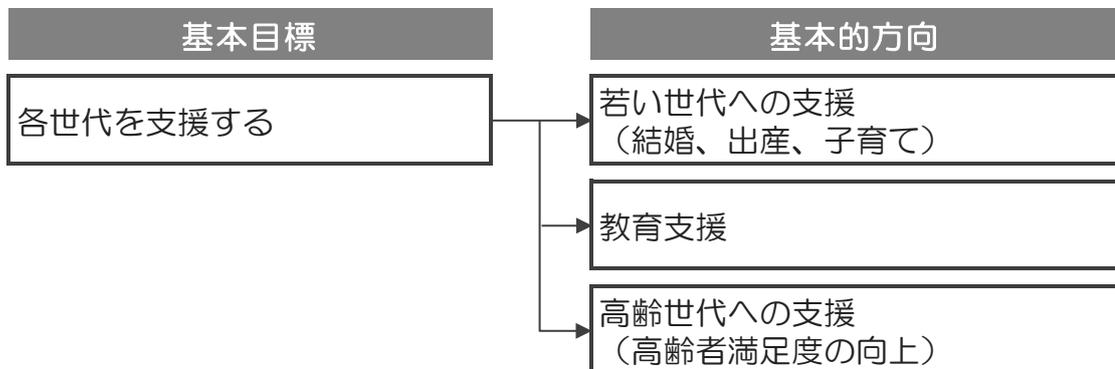
『各世代を支援する』

・矢板市の人口減少に歯止めをかけるためには、若い世代が、安心して子どもを産み・育てることのできるまちづくりを進めることにより、婚姻数や出生数の増加を図ることが重要となります。また、子どものころから、ふるさととしての矢板市への愛着を高めたり、高齢になっても健康的に暮らしていける人々を増やしたりすることも重要となります。そのため、子どもから高齢者まで各世代への支援を充実し、満足度の向上を図ります。

■数値目標(平成 31 年度)

指 標	現状値(H26)	数値目標(H31)
合計特殊出生率	1.39(H24)	1.55
0-4 歳人口(人)	1,160	1,250

■基本的方向の体系



② 基本的方向

(ア)若い世代への支援(結婚、出産、子育て)

- ・各種関係機関が連携し、地域で妊産婦や子育て中の保護者を見守り支える体制を強化し、安心して子どもを健やかに産み・育てられる環境をつくと同時に、子どもが健やかに社会の中で育まれるよう、保育・子育て支援サービスの充実等を図ります。
- ・また、就労意向の増大や生活スタイルが多様化し、保育需要が拡大する中で、仕事と子育てが両立できる環境づくりを推進します。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
婚姻数(件)	397	440
出生数に占める第三子以降の割合(%)	19.1	21.0
男女共同参画「みんなのつどい」参加者数(人)	200	300

(イ)教育支援

- ・学校と地域の連携や地域資源を生かした教育活動等により、地域に誇りを持つ人材を育成します。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
ふるさと学習講座受講者数(人)	46	100
地域等の外部人材を活用した授業、講座数(回)	345	400
児童生徒におけるふるさとへの愛着度(%)	—	100.0

(ウ)高齢世代への支援(高齢者満足度の向上)

- ・すべての高齢者が地域のなかで健康で生きがいを感じながら充実した生活を送れるよう、多様な社会参加・交流機会の充実をはじめとした健康づくり、生きがいづくりを支援します。また、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、地域の包括的な支援・サービス提供体制の構築を推進します。

■重要業績評価指標(平成31年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
高齢者サロン数(箇所・地区)	9	15
はつらつ館利用者数(人)	6,006	6,400

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでもらう
人の流れをつくる

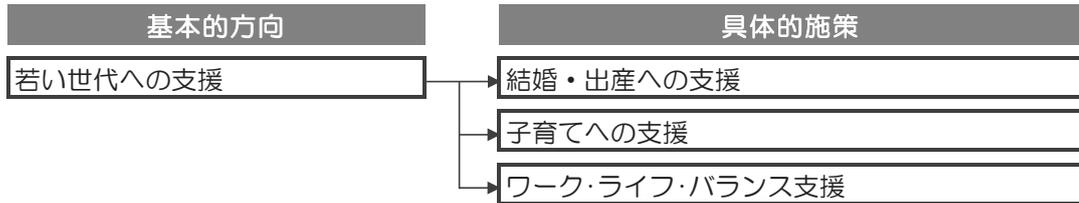
各世代を支援する

活力と魅力あるまちを
つくる



③ 具体的な施策と取り組み例

(ア) 若い世代への支援(結婚、出産、子育て)



具体的施策と取り組み例

結婚・出産への支援

・子どもと妊産婦への医療費や妊婦健康診査費、少子化対策として不妊治療費等の助成等を行います。

取り組み例 ●婚活支援団体への活動助成
●妊婦健診受診費用助成事業 など

子育てへの支援

・第三子以降の子どもの幼稚園等入園に伴う保護者の経済的負担の軽減や、子どもの医療費の助成、子育ての不安・悩みの軽減を図るための相談・指導など、子育ての支援を行います。

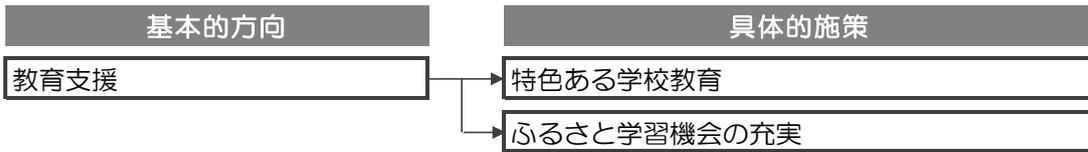
取り組み例 ●地域における子育て支援の担い手養成 など

ワーク・ライフ・バランス支援(仕事と子育ての両立)

・仕事と子育ての両立したライフステージのために、意識の啓発を図るとともに、民間保育所へ延長保育、一時保育、病後児保育などにかかる運営支援等を行います。

取り組み例 ●病児病後保育施設の充実 など

(イ) 教育支援



具体的施策と取り組み例

特色ある学校教育

・子どもの地域への愛着を深めるため、それぞれの学校や地域の特色を生かした教育活動の展開を行います。

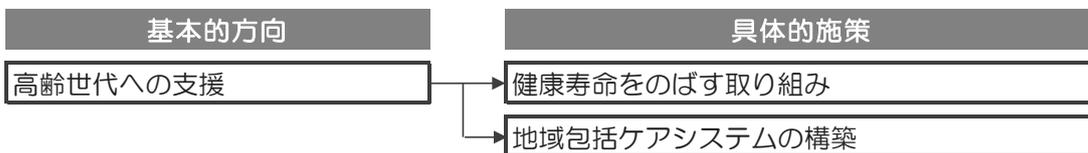
取り組み例 ●特色ある学校づくり推進事業 など

ふるさと学習機会の充実

・子どもたちが「ふるさと矢板」に関して学び・体験できる地域学習機会の充実を図ります。

取り組み例 ●子どもの夢をかなえるプロジェクトの検討 など

(ウ) 高齢世代への支援(高齢者満足度の向上)



具体的施策と取り組み例

健康寿命をのばす取り組み(高齢者の社会参加、社会貢献)

・高齢者が社会参加や社会貢献などに生きがいを持って、自立した日常生活を送れるように支援します。

取り組み例 ●高齢者社会参加促進補助事業
●高齢者生きがい等支援事業 など

地域包括ケアシステムの構築(医療福祉・介護予防)

・高齢者が住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けることができるよう、医療福祉・介護予防等が一体的に提供される地域包括ケアシステムの構築を実現していきます。

取り組み例 ●地域医療支援事業
●介護予防教室の開催 など

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでももらう
人の流れをつくる

各世代を支援する

活力と魅力あるまちを
つくる



(4) 基本目標4

① 基本目標

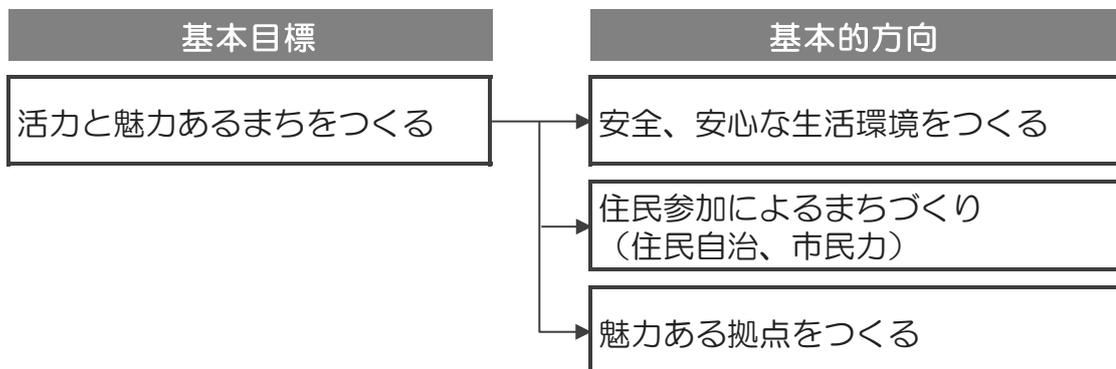
『活力と魅力あるまちをつくる』

・人口減少社会に適応したまちづくりを進めるためには、安全・安心な生活環境をつくるとともに、市民が快適に暮らせるための都市機能を維持・確保することが重要となります。そのため、公共施設等の総合的な管理や地域住民の参加によるまちづくり、コンパクトシティを基軸とした都市拠点の形成などにより、生活利便性を維持・向上させ、活力と魅力あるまちづくりを図ります。

■数値目標(平成 31 年度)

指 標	現状値(H26)	数値目標(H31)
行政区加入率(%)	76.1	80.0
住み良さに対する満足度(%)	58.0	70.0

■基本的方向の体系



② 基本的方向

(ア)安全・安心な生活環境をつくる

- ・地域住民が地域防災の担い手となる防災体制等の強化とともに、老朽化した公共施設の計画的な改修や機能見直し、配置の適正化等により、人口減少等を踏まえた既存ストックの効率的な活用を図ります。

■重要業績評価指標(平成 31 年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
自主防災組織の設立数(行政区)	37 / 68	50 / 68

(イ)住民参加によるまちづくり(住民自治、市民力)

- ・地域のことは地域の住民が自主・自発的に取り組む環境づくりにむけて、地域ニーズに合った自治活動の支援や仕組みをつくります。

■重要業績評価指標(平成 31 年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
地域コミュニティ推進事業取組数(累計)(行政区)	17 / 68	23 / 68
いきいき市民力活動助成申請数(件)	5	10

(ウ)魅力ある拠点をつくる

- ・コンパクトシティとして矢板3地区(矢板・泉・片岡)で歩いて暮らせる利便性の高いまちづくりを進めるとともに、各拠点間を結ぶ交通機能の充実を図ります。

■重要業績評価指標(平成 31 年度)

重要業績評価指標(KPI)	現状値(H26)	目標値(H31)
JR 矢板・片岡駅乗降者数(人)	2,638,950	2,700,000
市営バス乗降者数(人)	21,732	24,000
小さな拠点等の取組み数(地区)	—	1

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでももらう
人の流れをつくる

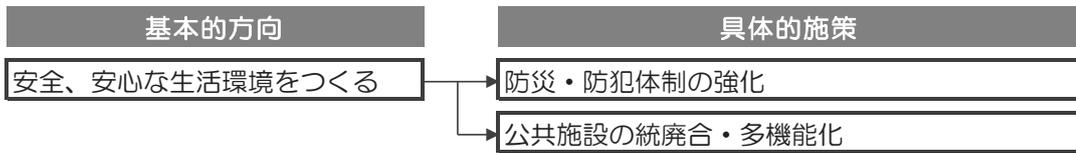
各世代を支援する

活力と魅力あるまちをつくる



③ 具体的な施策と取り組み例

(ア) 安全・安心な生活環境をつくる



具体的施策と取り組み例

防災・防犯体制の強化

・日常生活の安全、安心の確保のため、消防団の活動支援や防災設備の維持管理、非常食の備蓄などを行います。

取り組み例 ●防災活動推進事業 など

公共施設の統廃合・多機能化(長寿命化・耐震化)

・人口減少が進展するなかで、効果的・効率的な行政サービスを行うため、公共施設の統廃合や多機能化を進めます。

取り組み例 ●公共施設等総合管理計画の策定 など

(イ) 住民参加によるまちづくり(住民自治、市民力)



具体的施策と取り組み例

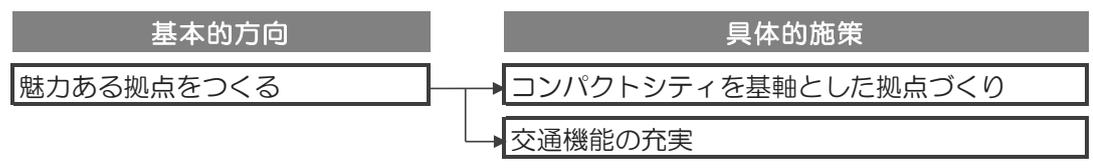
地域コミュニティ活動の推進

・地域のつながりを取り戻すとともに、地域ニーズに合った活動・仕組みを育成するため、地域コミュニティ活動に対し、各種支援を行います。

取り組み例 ●地域コミュニティ推進事業 など



(ウ) 魅力ある拠点をつくる



具体的施策と取り組み例

コンパクトシティを基軸とした拠点づくり(歩いて暮らせるまち)(3拠点)

・中心市街地の賑わいの創出や駅周辺の利便性の向上とともに、新市街地の形成の検討など矢板3地区(矢板・泉・片岡)の特性を活かし、利便性の高いまちづくりを進めます。

取り組み例 ●立地適正化計画の策定
●小さな拠点づくり事業 など

交通機能の充実(利便性、交通アクセス)

・コンパクトシティの拠点となる矢板3地区(矢板・泉・片岡)間の連携を図るための交通機能を充実します。

取り組み例 ●市営バス運行事業
●スマートIC整備事業
●主要幹線道路整備事業 など

安定した雇用を創出する

来てもらう、住んでももらう
人の流れをつくる

各世代を支援する

活力と魅力あるまちをつくる

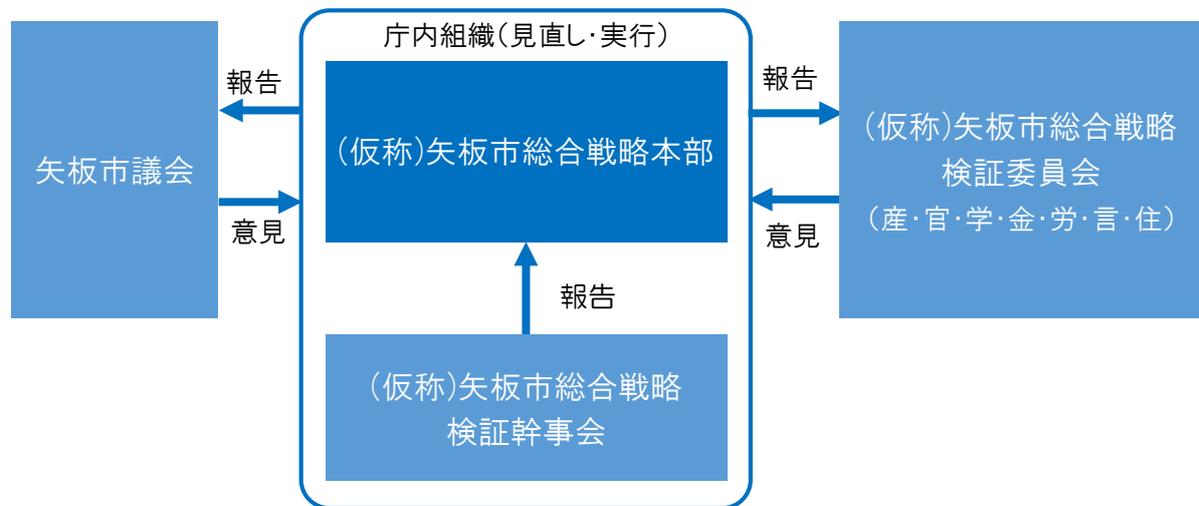


第3章 効果検証の仕組みづくり

矢板市総合戦略で示した基本目標を実現するため、実施した施策・事業の効果を検証し、必要に応じて具体的施策の改訂や実施事業の見直しといったプロセスを実行していきます。

総合戦略の効果検証に際しては、その妥当性・客観性を担保するため、総合戦略の策定プロセスで設置した戦略本部等を発展的に活用して、計画策定から施策・事業の実施までの5年間のプロセスで各組織が継続的に係わりをもって推進していきます。

■効果検証の仕組み(案)



組織名	役割	構成
戦略本部	【方針決定機関】 ・総合戦略の施策等の改訂方針を決定 ・市議会及び委員会へ報告し、意見を聴取 ・幹事会から効果検証結果を聴取	庁議委員
幹事会	・施策、事業の効果検証の実施 ・本部へ検証結果を報告	調整会議委員
委員会	・本部から報告された効果検証結果、総合戦略の施策等の改訂方針について検討 ・検討結果を本部へ提言	産業界、行政機関、教育機関、金融機関、労働団体、言論機関、及び住民



矢板市まち・ひと・しごと創生総合戦略

平成 28 年1月

矢板市 総合政策課
〒329-2192 栃木県矢板市本町5番4号
